様式第4のニ（第4条、第5条関係）

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		①					
タンク専用室②	壁	延焼のおそれのある外壁		床			
		その他の壁		出入口	(しきいの高さ cm)		
	屋	根		その他			
建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造③		階数		設置階		建築面積	m ²
		建築物の構造概要					
タンクの構造、設備	形状	④		常圧・加圧 (⑤ kPa)			
	寸法	⑥		容量	⑦		
	材質、板厚	⑧					
	通気管 ⑨	種	別	数	内径又は作動圧		
					mm kPa		
	安全装置 ⑩	種	別	数	作動圧		
			kPa				
液量表示装置 ⑪				引火防止装置	⑫ 有・無		
注入口の位置	⑬			注入口付近の接地電極	⑭ 有・無		
ポンプ設備の概要		⑮					
採光、照明設備		⑯		換気、排出の設備 ⑰			
配管		⑱					
消火設備		⑲		警報設備 ⑳			
工事請負者氏名 住所		㉑ 電話					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造の欄は、該当する場合のみ記入すること。

【屋内タンク貯蔵所構造設備明細書記載要領】

根拠条文：省令第4条、第5条

- ①「事業の概要」の欄は、事業の内容について具体的に記入する。
- ②「タンク専用室の構造」の欄のうち、その他の欄は、タンク専用室の建築面積を記入する。
- ③「建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造」の欄は、次により記入する。
 - (1) 建築物全体が屋内タンク貯蔵所になる場合は、記入せず斜線を記入する。
 - (2) 建築物の一部に設置する場合は、建物全体についての建物構造を記入する。
- ④「形状」の欄は、タンクの形状を「角型」、「縦置円筒型」等と記入する。
- ⑤「常圧・加圧」の欄は、該当する形態を記入する。
- ⑥「寸法」の欄は、当該タンクの寸法を「縦〇〇mm、横〇〇mm、高さ〇〇mm」等と記入する。
- ⑦「容量」の欄は、当該タンクの最大許可容量を記入する。
- ⑧「材質、板厚」の欄は、タンクの材質及び板厚を「屋根板〇〇mm、側板〇〇mm、底板〇〇mm」と記入する。材質が部材により異なる場合は、底板（S S 4 0 0）8mm等とする。
- ⑨「通気管」の欄は、通気管の種別、数、内径又は作動圧を記入する。
- ⑩「安全装置」の欄は、安全装置の種別、数、作動圧について記入する。
- ⑪「液量表示装置」の欄は、覚知装置を「自動式液面計」等と記入する。
- ⑫「引火防止装置」の欄は、「有」・「無」のいずれかに○をつける。
- ⑬「注油口の位置」の欄は、注油口の位置について記入する。

（例）「遠方注入口」（別添図面の位置）、「タンク直上」等と記入する。
- ⑭「注入口付近の接地電極」の欄は、「有」・「無」のいずれかに○をつける。
- ⑮「ポンプ設備の概要」の欄は、ポンプ設備の種別（うず巻きポンプ、ギアポンプ等）数、固定方法、設置位置について記入する。
- ⑯「採光、照明設備」の欄は、種別（窓、照明）、防爆構造の種別、数を記入する。
- ⑰「換気、排出の設備」の欄は、換気又は排出の別、素材、個数、引火防止網の有無等を記入する。
- ⑱「配管」の欄は、危険物配管の材質を記入する。なお、J I S記号の記入でも認められる。また、当該配管が地下埋設配管の場合は、配管外面の保護方法も記入する。
- ⑲「消火設備」の欄は、危険物の規制に関する政令別表第5の消火設備の区分のうち、設置したものを記入する。
- ⑳「警報設備」の欄は、危険物の規制に関する規則第37条で規定する区分のうち、設置したものを記入する。
- ㉑「工事請負者住所氏名」の欄は、設置者等から工事を請け負った法人の名称及び住所並びに当該法人における当該工事の責任者の氏名、電話番号を記入する。